



田沢診療所で長きにわたり診療を行った市立田沢湖病院の佐々木院長（前列中央）を囲んで。

田沢地区の健康と安全安心を繋ぐ 田沢診療所が85年の歴史に幕

昭和10年から現在までの85年にわたり、地域住民の医療機関として親しまれてきた田沢診療所が3月17日の診療をもって長い歴史に幕を閉じました。

当日は閉所式が行われ、最後の診察を終えた方や地域住民が集まり、佐々木英人院長をはじめ、看護師の皆さんに花束を贈呈し感謝の気持ちを伝えました。35歳くらいから月1回、田沢診療所を利用し

ているという千葉弘和さんは「先生の診察の日を心待ちにして、会うとホッとした。地域の交流の場でもありお互いの近況や世間話に花を咲かせ、先生の診察を終えるとき生々とした顔で帰るとい生活だった。先生と看護師さんには、長きにわたり診療を行っていただき感謝する」と話しました。

また、平成10年からの22年間、診療を行っていた佐々木院長は「昭和10年から一時戦時中に途絶えたこともあったが、今まで田沢地区の健康と安全安心を繋いできた診療所。その診療所が閉められるというのは非常に感慨深い。地域の皆さまも不安があると思うが、田沢湖病院で田沢地区の健康と医療を守っていくので、お任せいただければ」と話しました。

今後は毎週水曜日に予約制で同病院と1往復するタクシーが運行されます。

地域活性化と住民サービス向上に

仙北市 × 日本郵便株式会社

包括連携に関する協定を締結



協定を取り交わした日本郵便㈱の古屋正昭東北支社長（右）と門脇市長（左）。

3月17日、市役所田沢湖庁舎で仙北市と日本郵便株式会社が包括連携に関する協定を締結しました。

この協定は、双方の資源を有効活用した協働による活動を推進し、地域活性化や住民サービスの向上などに向けて、相互に連携して地域振興を図ることを目的とするものです。

これまでも郵便局での農作物の販売やふるさと納税返礼品の発送などで連携してきましたが、今後は、定期的な協議を通して様々な取り組みを進めていくこととなります。

締結式で同社の古屋正昭東北支社長は「郵便局は地域にとって安全安心の拠点でなければいけない。地域住民あつての郵便局なので、地域活性化に向けてできることをしっかりとやっていくことが使命だと思っている。今後も仙北市と協力関係を持ちながらお互いに発展していきたい」と話しました。

また、門脇市長は「仙北市が掲げる『小さな国際文化都市』の達成と地方創生を前に進めるためにさらなる連携関係を築いていきたい」と話しました。

市内12校に給食を提供

仙北市総合給食センター竣工祭

3月26日、西木町西荒井に仙北市総合給食センターが完成し、竣工祭が行われました。

この日は、関係者約20人が出席、新型コロナウイルス感染症防止のためテープカットなどは行わず、神事のみ行われました。

同センターは、田沢湖・角館・西木の3給食センターを統合し、4月6日から市内の小中学校11校と大曲支援学校せんばく校に約1860食を提供しています。



施設の特徴や内部の様子は4月1日号の11～13ページをご覧ください。

3月20日、武藤キヨエさん（角館町菅沢）が100歳の誕生日を迎えられ、介護老人保健施設にしき園でお祝いが行われました。

当日は、家族の皆さんが集まり、仙北市からお祝いと花束が贈呈されました。



中央がキヨエさん。

百寿

おめでとーい いっしょにお祝い

3月31日、佐藤志三郎さん（西木町小淵野）が100歳の誕生日を迎えられました。

当日は、家族の皆さんが集まり、仙北市からお祝いと花束が贈呈されました。

中央が忠三郎さん。



仙北市社会教育委員に

委嘱状が交付されました

社会教育委員は、仙北市の社会教育に関する諸計画の立案や社会教育の推進など、教育委員会の諮問に応じて意見や助言を述べる職務を担っていただいています。この度、新任3人を迎え、15人の委員に委嘱状が交付されました。



2年間社会教育委員として頑張ります。

- 社会教育委員**
- 委員長、委員長職務代理者以降は五十音順掲載、敬称略）
 - 委員長 佐藤正美（再）
 - 委員長職務代理者 羽根川寛（再）
 - 委員 阿部節子（再）
 - 委員 阿部陽子（再）
 - 委員 大澤博公（再）
 - 委員 門脇トキヨ（再）
 - 委員 木元哲（新）
 - 委員 佐藤秋夫（再）

- 委員 鈴木勝一（再）
- 委員 田村忍（新）
- 委員 田村雄幸（再）
- 委員 土谷啓子（再）
- 委員 藤村榮一（再）
- 委員 三浦栄子（再）
- 委員 武藤博夫（新）

【任期】
令和2年2月20日～
令和4年2月19日

秋田県仙北建設業協会建友会

特別支援学級に
タブレット端末寄贈



秋田県仙北建設業協会建友会の小原貴会長（前列中央）から熊谷教育長（前列右）に手渡されました。

3月23日、秋田県仙北建設業協会建友会から仙北市の特別支援学級にタブレット端末2台が寄贈されました。

建友会では、地元の小・中学校に貢献したいとの考えから、3年前からタブレット端末を特別支援学級に寄贈しています。タブレット端末を活用することにより、児童生徒の興味・関心が高まり、生き生きと活動に取り組む様子も報告されています。「自分でできる」、「一人でできる」経験を積み重ね、生活能力の向上と自立促進に役立ててほしいと考えています。



インタビューで
伝えたい物語
東風平 詩人



令和元年11月に開業した農家民宿「ホームステイ風雅」の客室で。

こんにちは！時の流れは早いもので、地域おこし協力隊着任から半年が経ちました。今私が取り組んでいるのが「グリーンツーリズム関連宿インタビュー企画」です。今からいきなり私の祖父について書きますが、最後まで読み進めればインタビュー企画の趣旨をご理解いただけると思いますので、しばしおつき合ください。

『私の祖父は沖縄で百姓を生業としており、トマトや島ラッキョウ、ゴーヤーなど、常夏の島の食材を無農薬で栽培している』以上。これだけの情報では秋田において、わざわざ祖父の野菜を食べたいと思わないでしょう。それではこれ

ならどうでしょう。

『祖父は農業高校時代、サトウキビの搾り機に腕が巻き込まれ、右腕を失った。しかし、農業への思いを失うことはなかった。男5人を育てるために法学の道を極め、大学の学長にまでなったが、退職を機に「よつやくおれの夢が叶う」と退職金すべてを農地にあてた。収入も決して高くなく、交通の便も悪い山奥での生活だが、毎日楽しそうに土と戯れている。私の名前「詩人」も「人の心によい種を蒔く人であれ」と祖父がつけてくれた。そんな祖父も昨年米寿を迎えたが、バリバリの現役だ。』



インタビュー記事を掲載した（一社）仙北市農山村体験推進協議会のホームページはこちらから！ぜひご覧ください！

最初の文章と比べたら祖父の作った無農薬野菜、食べたくなりませんか。この例のように、これまであまり注目されなかった物や場所、人や行事にも紐解くと歴史があり、ストーリーに溢れ、人を惹きつける力があると信じています。

私は今年の1月から国際教養大学の3人のインターン生と共に、インタビュー企画に取り組んでいます。仙北市の各宿のオーナーの「物語」を伝えることで、微力ながら仙北市のコアな魅力を発信する一助となればと思っています。

インタビュー記事は随時、（一社）仙北市農山村体験推進協議会のホームページに更新されます。ここに掲載のQRコードや、アドレス（<https://semboku-gt.jp/blog/>）から閲覧できます。仙北市の宿をよくご存じの方でも、違った一面が見えるかもしれません。ご一読いただければ幸いです。

かくのだてフィルムコミッション
ロケーションだより
Kakunodate Film Commission

かくのだてフィルムコミッション
（仙北市観光課内） ☎43-3352
<https://kakunodate-fc.jp/>

かくのだてフィルムコミッション（以下FC）の新年度が始まりました。昨年度は、秋田県と市町村、FCで構成される「あきたロケ支援ネットワーク」が立ち上がり、県内のロケ支援体制も整いつつあり、撮影の機会も多くなっているように感じます。

最近ではWEBで公開される作品の支援も多くなっています。3月15日・16日の2日間に行ったり、海外YouTubeのミカエルさんがプロモーション動画の撮影のため、仙北市を訪れました。ミカエルさんは日本に在住しており、日本各地の観光地の魅力を、YouTubeを通じて発信している方です。仙北市内各所でロケが行われました。角館の撮影では、武家屋敷通りの風情に合わせてミカエルさんが着物姿で撮影を行いました。どのような映像に仕上がるか楽しみです。



武家屋敷通りでのYouTube動画撮影風景。

今回の撮影は、コンパクトな撮影機材で行われました。機材の性能も向上し、以前と比べて持ち込まれる機材が大掛かりでない場合も多くなりました。

撮影後すぐに公開される予定でしたが、新型コロナウイルスの影響により、公開が延びています。公開が決まり次第、皆さまにお知らせしたいと思えます。

新型コロナウイルスの感染が広がっており、仙北市も観光業を中心に大きな影響を受けています。一日も早い収束を願いつつ、かくのだてFCは、細心の注意を払って対応していきたいと思っています。

（会長 坂本 洋）

にしき園だより

にしき園は高齢や病気で心体機能の衰えた方にリハビリなどを施し、寝たきりを防いで生活機能の維持向上・在宅復帰をめざす施設です

— 第4号 —

問 にしき園 ☎47-3211

老人保健施設では火災、風水害、地震などの非常災害に備えた対応マニュアル作りや年2回の消火・避難訓練の実施が義務づけられています。



実際に消火器を使って訓練しました。

にしき園でも火災報知機の操作や119番通報、消火器操作、利用者を車いすなどで避難誘導などの訓練を行いました。

西木消防分署からは、声を大きく出して、とにかく人命優先で避難誘導することなどの指導をいただきました。



西木消防分署の職員から指導を受けている様子。

課題も見えてきて訓練の大切さを改めて知らされました。

【利用者の状況】

1月末	93人
2月入所	6人
2月退所	5人
2月末	94人

平均要介護度 2.9

感染症予防のためしばらくの間、施設見学・面会などをご遠慮いただいています。